

2011年度 グローバル・コミュニケーション学部  
教育、研究、社会貢献活動に関する自己点検・評価結果について（概要）

### I. 教育活動

学部開設1年目に当たる2011年度の教育活動は、各教員がシラバスに記載した授業の概要や到達目標を踏まえ、適切な教材を選び、学生の理解を助けるハンドアウトやパワーポイント、更には、e-classなどの授業支援ツールの幅広い活用による教育効果の向上に努めた。講義系の授業では、授業の最後に、学生にその内容を総括するコメントを書かせることなどによって、学生が授業を通して得た知識に基づいて論考を更に広げるための工夫を行った。演習系の授業では、ペアワークやグループワークなどのアクティビティを通して学生の積極的な授業参加を促し、また、課題を頻繁に与えることによって学生の自学自習を促す工夫を講じた。本学部の教育活動を総括すると、コミュニケーションに関する教育、研究を中心とする学部カリキュラムにふさわしい学生参加型の授業運営が、試行錯誤の中ではあるが、取り組めたことは評価できる。

なお、英語コース、中国語コースの学生は、1年間のStudy Abroadが必修であり（英語コースは2年次、中国語コースは2年次秋学期から3年次春学期）、また、日本語コースの学生は海外からの留学生であるという学部の特性に留意した教育指導方針として、1年次の授業出欠状況に関する情報共有を組織的に行い、指導が必要な場合は、学生を適宜呼び出し、学生との対話を通じた教学指導を徹底した。更に、オフィスアワーを設定し、学生の要望に応じたきめ細やかな指導も行っている。

正課授業以外の教育活動の主なものとしては、弁論大会や検定試験に挑戦する学生の個別指導、及び、TOEFL等の資格試験を受験する学生のための特別課外講座などを実施した。また、学生ボランティアによる本学部学会冊子「Cosmos」の編集の際にも、教員によるきめ細かい指導を行った。

### II. 研究活動

教員ごとに、著書、論文執筆に加え、学会発表などを通じた研究活動を活発に行った。（詳細は、本学研究者データベース参照。URL: <https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/>）

### III. 社会貢献活動

多くの教員が、学会運営のための委員職などを通じた学外の社会活動に積極的に関わった。また、「京たなべ・同志社ヒューマンカレッジ」の講座や高等学校からの要請による模擬講義への協力を通して、幅広い社会貢献活動を展開した。更に、京田辺キャンパスにおける同志社京田辺祭での学部独自企画の開催を通して、地域社会への貢献も積極的に行うことができた。